

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.94) 2014/07/12

目次

1. 第40回日本保健医療社会学会大会報告(朝倉理事)
 2. 平成26年度第1回理事会報告(三井理事)
 3. 第40回総会報告について
 4. 園田賞報告
 5. 編集委員会報告(小澤理事)
 6. 定例研究会の報告、企画について(関東)(木下理事・清水理事)
 7. 定例研究会の報告、企画について(関西)(進藤理事・林理事)
 8. 看護・ケア研究部会の報告、企画について(三井理事)
 9. 渉外・国際交流活動(および社会学系コンソーシアム)(金子理事)
 10. 第42回大会(2015年度)について(三井理事)
 11. 編集後記
- 別添：第40回総会報告

1. 第40回日本保健医療社会学会大会報告(朝倉理事)

第40回日本保健医療社会学会は、5月17日、18日の2日間にわたって、東北大学医学部・東北大学病院において開催した。東北地方で初の開催だったため、十分な参加者数を集められるのかを少々心配したが、無事に174名の参加により盛会のうちに終了することができた。東北地方で初の開催だったため特に広報活動に力を入れ、例年は1回であった会員へのポスター配布を2回とした。同時に、これらのポスターを演題募集時と参加者募集時の2回にわたり、東北地方の保健医療福祉系の大学、病院等に配布した。

第40回大会を企画するにあたり、仙台近辺に会員が少ないことから企画委員会組織を立ち上げるができなかった。そのため、理事会の意見を頂きつつ、30代を中心とした大会事務局(学会会員)で企画を考案しなければならない状況であった。紆余曲折の議論の結果、大会のメインテーマを「保健医療福祉のヒューマンリソース」とし、保健医療福祉人材の質と量の確保の問題を、東日本大震災の影響を含めて扱うこととした。

教育講演は、平林勝政氏(國學院大學)と上昌広氏(東京大学医科学研究所)、メインシンポジウムでは、藤井賢一郎氏(上智大学)、富永真己氏(京都橘大学)、末永カツ子氏(東北大学)、白瀬由美香会員(国立社会保障・人口問題研究所)にご登壇いただいた。また、第40回大会は、ウェブ上での演題募集・登録を実施して2回目の大会であったためか、演題登録に関して大きな混乱はなく、最終的にRTD5演題、一般演題59演題を集めたことは成功であったと考えている。しかし、大会プログラムについては引き続き、参加した皆様の忌憚のない評価を頂きたいと思っている。

過去の多くの大会で、懇親会は学内食堂を使って行われてきたが、第40回大会では大学キャンパスから離れ、仙台・青葉祭りの会場近くのレストランにて開催した。東北大学医学部同窓会会館の飲食コストが高めであること、医学部生協会館の改修工事が不定期に入る可能性があったことも理由であるが、最も大きな理由は、参加者の皆様に少しでも仙台・青葉祭りの雰囲気を感じていただきたかったからである。17日夜の懇親会には50名以上の皆様にご参加いた

だき、遅くまで参加者間の交流が続いた。

最後に、この場を借りて、第40回大会の運営に尽力した事務局メンバー（会員）を紹介したい。事務局メンバーは、事務局長 佐藤みほ会員、実行委員長 渡邊生恵会員、受付担当実行委員 三浦恵美会員、一般演題会場担当実行委員 杉山祥子会員、臨床講堂担当実行委員 下條祐也会員、ポスター会場担当兼撮影・録音担当 高田望会員であった。また、第40回大会の運営に関しては、東北大学大学院医学系研究科保健学専攻看護学コースの教員、大学院生、学部学生に多大なご協力をいただいた。この場を借りて感謝を申し上げる。

朝倉京子（第40回日本保健医療社会学会大会長）

2. 平成26年度第1回理事会報告(三井理事)

日時：2014年5月17日（土） 09:30~11:30

会場：東北大学医学部保健学科、東北大学病院 大会議室1階

出席者：黒田会長、三井理事、小澤理事、朝倉理事、清水理事、進藤理事、林理事、金子理事、事務局 平野（記）

欠席者：池田理事、木下理事、

1) 事務局前任者による不祥事について

・黒田会長より事務局担当の前任者による不祥事について報告がなされた。4月26日の監査前に理事メーリングリストで配信し事前承認された決算書と、実際に監査にて承認された決算書の内容が異なっていることから事後承認の提案がなされた。(株)国際文献社より黒田会長へ送られた顛末書、収支推移表を回覧し、決算書が事後承認された。黒田会長より(株)国際文献社に下記3点について次回理事会前までに文書にて送るよう依頼した。「1:2011年度の不正有無について 2:前任者担当の他学会について 3:刑事告訴を含めた全容について」。この件は次回理事会にて審議することとなり、また総会でも報告することとなった。

2) 第40回大会および総会についての確認

・朝倉理事より、大会運営の状況について報告された。
・三井理事より、今までニューズレターに掲載されていた入退会者リストがニューズレター電子化に伴い総会資料に掲載されていることが伝えられた。

3) ニューズレター94号について

・池田理事よりメーリングリストにて配信された次号の構成案について審議がなされた。

4) 編集委員会報告

・小澤理事より電子ジャーナル化の手続きについて報告がなされた。NII-ELSに申請し、現在、審査・承認待ちとなっているが、2015年度以降に事業見直しが行われるため対応策について編集委員会で検討後、次回理事会にて報告することが伝えられた。

・25巻1号に園田賞審査報告について掲載することが伝えられた。

5) 定例研究会の報告、企画について(関東)

・黒田会長より定例研究会の予算執行の仕方について、以前のように担当理事の口座に一括して予算額を振り込み、事業終了後に理事会に報告することとし、黒字となった場合は学会へ戻す(赤字の補填はなし)とすることを提案し、承認された。

・清水理事より今年度の企画について未定ではあるが、次年度の大会に関連した内容等を検討していることが報告された。

6) 定例研究会の報告、企画について(関西)

- ・進藤理事より今年度の企画については未定であり、鋭意企画中であることが報告された。
- 7) 看護・ケア研究部会会計報告
 - ・三井理事より看護・ケア部会の会計報告がなされた。また、今後は看護・ケア研究部会の担当理事を決めることが提案された。
- 8) 渉外・国際交流活動（および社会学系コンソーシアム）
 - ・金子理事より 2013年度の報告がなされた。フランス保健社会学会ネットワークよりニューズレターが送付されたこと、関係者に ISA 横浜大会への参加を伺っていることが報告された。
- 9) 第 41 回大会（2015年度）について
 - ・三井理事より大会開催校と理事会の役割分担について提案がなされた。ホームページについては国際文献社のヘルプデスクが引き続き管理等をしていくこととし、ポスターの製作については国際文献社で作成・印刷も可能だが、継続審議となった。要旨集の編集作業については料金発生有無について再確認することとなり、分担等について三井理事と事務局とで打ち合わせをし、次回の理事会で再提案することとした。
 - ・また、第 41 回大会の日程は 2015年 5月 16、17日を第一候補とすることとした。
- 10) その他
 - ・三井理事より、入退会者について報告がなされた。新入会 6名（通常会員：3名、共同発表会員：3名）、退会者 2名（通常会員）が承認された。

3. 第 40 回総会報告

総会報告の詳細は、大部になりますので、末尾への別添とします（会報広報担当・池田）

4. 園田賞報告

若手研究者の研究奨励を目的に 2006年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞(2011年度より「園田賞」)の 2013年度受賞者は、選考委員会による審査結果の報告を踏まえ、理事会で審議の上、以下の通り決定され、受賞者には、2014年度の学会大会の総会終了時に授賞式が行われました。

受賞者：南 貴子（*愛媛県立医療技術大学保健科学部）

受賞作：原著「生殖補助医療の法制度化において「取り残された子」の出自を知る権利——オーストラリア・ビクトリア州の新たな試み——」（『保健医療社会学論集』第 24 巻 1 号、pp.2130、2013年）

2013年度奨励賞は、この年度に発行された本学会機関誌『保健医療社会学論集』（第 24 巻）に掲載された若手研究者による論文（総説、原著、研究ノート）を対象にして選考され、選考対象論文は 4 本（原著 3 本、研究ノート 1 本）でした。

受賞論文は、現在社会的に注目を集めている「出自を知る権利」について、オーストラリアのビクトリア州において世界的に見て先進的に展開されている法制度化の経緯、その論点を丁重かつ包括的に提示したものであり、知見のもたらす意義、論点の整理の適格性が特に評価されました。（*所属先です）

5. 編集委員会報告（小澤理事）

5月17日に、2014年度第2回編集委員会を東北大学において開催した。審議内容は以下の

通りである。

- ・25 巻 1 号の構成案と進捗状況の確認
- ・論文査読状況の確認
- ・26 巻 1 号 (2015 年刊行) の特集について
- ・国立情報学研究所・電子化事業に関する説明会参加報告
- ・2015 年の第 41 回大会において編集委員会企画の若手研究者向けのセミナー開催に関する意見交換

6. 定例研究会の報告、企画について(関東) (木下理事・清水理事)

平成 26 年度の定例研究会 (関東) については、年間 2~3 回程度開催する予定です。決定次第、随時学会のホームページ、メーリングリスト等でご案内いたします。

- ・平成 26 年度第 1 回定例研究会 (関東) のご案内

日 時：平成 26 年 9 月 6 日 (土) 14:00~16:00

場 所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス会議室 A・B (秋葉原ダイビル 1 3 階)

http://www.tmu.ac.jp/university/campus_guide/access.html#mapakihabara

報告者：青木美紀子先生 (聖路加国際病院遺伝診療部 看護師・認定遺伝カウンセラー)

タイトル：遺伝性腫瘍の治療・相談の現状と社会への影響 (仮)

概要：

近年、一般にも知られることとなった遺伝性腫瘍の治療や相談が現在どのように行われているのか、そうした疾患を抱える患者や遺伝的つながりを持つ家族が抱える問題について、臨床で対応されておられる立場からご講演いただきます。

更なる技術の発展が期待される中で、今後の社会的な影響についても、参加者とのディスカッションにより深めたいと思います。

清水準一・木下康仁 (研究活動理事：関東)

7. 定例研究会の報告、企画について(関西) (進藤理事・林理事)

今年度の関西地区定例研究会は、まだ具体的なテーマ、講師、日程は確定していませんが、10月上旬の開催を予定しています。

8. 看護・ケア研究部会の報告、企画について (三井理事)

1) 研究活動報告

<報告：看護・ケア研究部会：2013 年度 第 4 回定例研究会、2014 年度総会>

2013 年度第 4 回定例研究会が、3 月 22 日 (土) 13:30~17:00 に、東京女子医科大学河田町キャンパスで開かれました。白瀬由美香さん (国立社会保障・人口問題研究所) から、「ケアの質をめぐる政策と従事者の専門性」と題して報告がありました。内容については次の通りです。本報告は、イギリス医療における事例をもとに、ケアの質を保証するための政策と従事者の専門性のありようとの関係性を探ろうとした。イギリスは租税を財源として、予算の枠内でサービス供給をする医療システムであることから、ともするとサービスが過小になりやすく、一定水準のケアの質を保つための多様な方策が講じられている。したがって、イギリスの事例は公的サービスとしてのケアの質の保証する政策の一つの極を表すものとし

て位置づけることができる。具体例として、受診までの待機期間の目標設定、成果に基づく診療報酬や施設基準の策定、専門職免許の更新制、診療ガイドラインの導入などが紹介された。こうした諸施策によって形成される医師や看護師の行動規範や両者の関係性、専門職として求められる資質等に関して報告者から論点が提示され、伝統的専門職論とイギリスの現状との違い、ケアサービス全体における公共部門と民間部門の占める比重に関する日英比較などに関して議論がなされた。

また、2014年度総会が、5月18日(日)に東北大学での大会中に開催されました。新役員は次の通りです。会長は中村美鈴さん、副会長は朝倉京子さん、会計は松繁卓哉さん、庶務は白瀬由美香さん。例会の日程は、7/26(土)、9/13(土)、11/15(土)、1/10(土)、3/14(土)を予定しています。毎回2人まで報告できますので、報告希望の方は事務局までご一報ください。

看護・ケア研究部会問合せ先: 事務局 白瀬由美香 shirase-yumika@ipss.go.jp
(看護・ケア研究部会長: 中村美鈴)

2) 案内

<看護・ケア研究部会: 2014年度 第1回定例研究会>

日時: 7月26日(土) 13:30~16:30

場所: 国立社会保障・人口問題研究所 会議室

報告者: 松繁卓哉さん(国立保健医療科学院)

タイトル: 「セルフケア」の社会学の射程 一何を検討し、何を問うていくか—

看護・ケア研究部会問合せ先: 事務局 白瀬由美香 (shirase-yumika@ipss.go.jp)

(看護・ケア研究部会長: 中村美鈴)

9. 渉外・国際交流活動(および社会学系コンソーシアム)(金子理事)

1) 第18回世界社会学会議横浜大会について

国際社会学会(ISA)の横浜大会(第18回世界社会学会議)が、2014年7月13~19日にパシフィコ横浜で開催されます。世界の社会学者と交流を深める良い機会ですので、会員の皆様は奮ってご参加ください。詳細についてはISAウェブサイトの横浜大会ページ(下記)などでご確認ください。また、本学会ウェブサイトのISA横浜大会ページにも関連情報を掲載しています。

なお、世界社会学会議への参加登録方法について、大会組織委員会からの連絡です。参加登録は、当日会場(会議センター2階)でも受け付けております。国際社会学会非会員の方は52,000円です(国際社会学会会員の方は40,000円)。院生の非会員の方は18,000円です(国際社会学会会員の院生は17,000円)。1日だけ参加したい、2-3日間だけ参加したいという方は、One Day Ticket 12,000円(1日券)をご利用ください。セッション会場などへの入場のためには、会議センター2階受付での登録(名札・コンgresバッグの受け取りなど)が必要です。

関連URL

<http://www.isa-sociology.org/congress2014/>

<http://www.wcs2014.net/>

2) 国際交流の進展について

第40回日本保健医療社会学会大会時に国際交流委員会を開きました。協議の結果、学会ウェブサイトの英語版ページの充実を図り、国際的な情報発信に努めること、また諸外国の関連学会と連絡を取り、国際交流の進展を図ることとなりました。いずれも、7月の第18回世界社会学会議横浜大会後に取り組みます。

3) 社会学系コンソーシアム事務局からの連絡

おかげさまで、「世界へのメッセージ」は、社会学系コンソーシアムのホームページにアップしたうえ、世界社会学会議の当日までに、冊子体、CD、および概要紹介パンフレットが出ることになりました。

世界社会学会議の開催期間(7月14日～19日)には会場(パシフィコ横浜)に「メッセージ」集関連のブース(展示ホール1階 ブースNo.E4)が設けられ、係の者が対応する予定です。

また、冊子およびCDは、全国の大学の社会学研究室および図書館に1部ずつ贈呈し、今後の参考のために蔵書に加えていただきたいと思っています。

各大学社会学研究室内の主任およびその代理の方、各大学の図書館に贈呈し蔵書に加えるべく手続きを取っていただける方は、ぜひこの機会にブースにお出でいただき、大学名、研究室名、図書館名などをご記入のうえ、直接お持ちください。

社会学系コンソーシアム URL <http://www.socconso.com/message/index.html>

10. 第41回大会(2015年度)について(三井理事)

2014年5月16日(土)・17日(日)に法政大学多摩キャンパス(町田市)にて開催の予定で、準備を進めている(大会委員長は三井さよ)。また、今後に向けて、大会開催校負担の軽減していくため、理事会との業務分担の整理も同時に進めている。

11. 編集後記

日本保健医療社会学会ニューズレター(No.94)をお送りします。今回は、東北大学(仙台)で開催された第40回大会と、そこで報告された総会報告の内容が中心となっています。

日本保健医療社会学会ニューズレターは第92号からはpdfファイルのメールマガジン形式で配信しています。もしメールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局(下記)まで御連絡ください

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

発行：日本保健医療社会学会

編集：会報広報担当(池田光穂)・(株)国際文献社

学会事務局：

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

jshms-office@bunken.co.jp

03(5389)0237

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.94) : 別添

総会報告

議長に伊藤美樹子会員が選出され議事が進行され、すべての議案が承認された。以下、要点を報告する。

なお、第1号議案に入る前に黒田会長より事務局担当の前任者による不祥事について報告がなされた。今後については、国際文献社から「1.2011年度の不正有無について 2.前任者担当の他学会について 3.刑事告訴を含めた全容について」を文書で送ることとし、それに基づいて次回理事会にて審議することが承認された。

第1号議案:2013年度事業報告

1. 学会長より:

学会長の担当事項、および、理事の分担を超えた全体的事項について報告する。

- (1) 第40回日本保健医療社会学会大会は、朝倉京子会長、佐藤みほ事務局長の尽力のもと、東北大学医学部において、5月17日、18日の2日間にわたり、開催。
- (2) 2016年度の第42回大会主催を追手門学院大学(大会長・蘭由岐子教授)で、2017年度の第43回大会主催を佛教大学(大会長・村岡潔教授)に依頼し、内諾を得ている。
- (3) 学会事務局の業務委託体制の整備の継続
- (4) 前期理事会において、会費値上げと学会事務の国際文献社委託を出発点に、「緊縮財政」によって、学会会計破綻の危機が回避されたのを受けて、中期的に、かつ着実に、学会運営上、健全な水準の予備費(繰越金)の積み上げに至ることを目標に、収入と支出の両面にわたり、健全な財政構造の確立に努めた。

2. 研究活動担当理事より(関東、関西、看護・ケア研究部会):

- (1) 定例研究会を関東2回、関西2回、看護・ケア研究部会を5回開催。
- (2) 理事会で、園田賞(学会奨励賞)選考委員及び委員長を選出。縁故関係について内規に基づいて検討したところ、委員1名について広義での共同研究者に該当すると考えられる対象論文があったため、委員から除外。選考委員会で受賞者の選考が行われ、その経過および結果が理事会に報告され、承認。
- (3) 2014年度大会におけるラウンド・テーブル・ディスカッションの公募の結果、応募件数は5件であり、すべて研究活動理事により承認。

3. 学会誌編集担当理事より:

- (1) 学会機関誌『保健医療社会学論集』第24巻1号の刊行(原著4本、研究ノート1本、書評論文1本、書評9本)。第24巻2号の刊行(「東洋大学大会」特集論文5本、原著2本、研究ノート1本)。2014年3月末締切投稿論文11本。
- (3) 電子ジャーナル化の手続きを進めた。
- (4) 編集委員会体制の整備に努めた。

4. 渉外・国際担当理事より:

- (1) 社会学系コンソーシアム加盟の学協会で編集する『世界へのメッセージ』(ISA横浜大会参加者に配布する英文冊子)に掲載する本学会の原稿“The Great Expansion of Health & Medical Sociology in Japan: Past, Present, and Future”を、コンソーシアムに提出。

(2) フランス保健社会学ネットワーク(the thematic network “Health, Medicine, Illness and Disability” of the French Association of Sociology [Association Francaise de Sociologie]) から、日本保健医療社会学会と交流したいとの連絡があり、先方とコンタクトを取りながら、交流の仕方を検討している。

5. 会報・広報担当理事より:

(1) 前回から今回の総会までの間にニューズレターを紙媒体で1回(91号, 2013年9月)、電子媒体で2回(92号、2014年2月:93号、2014年4月)を発行。電子化にともない、入会・退会等の個人情報を掲載しないという変更をおこなった。

(2) ウェブページについて、定例研究会の案内ページを立ち上げた。また、ニューズレターの配信後に、会員が電子化したニューズレターのアーカイブを閲覧できるように、電子化以降発行されたニューズレターをダウンロードすることが可能なページを立ち上げた。

6. 総務担当理事より:

(1) 財政運営については、関係各位の協力を得て改善に向かいつつある。

(4) 2014年4月1日現在の会員数は、通常会員 640名、共同発表会員 16名、名誉会員 9名、図書館会員 10団体、定期購読会員 14団体の合計 689名(団体)。その他、3団体が寄贈会員。2013年度通常会員の入退会者数は、入会が 30名、退会が 30名、資格停止が 9名。

(5) 東日本大震災被災者に対する会費減免措置を 2013年度も継続。

(6) 入退会者リストについて、ニューズレターの電子化にともない、ニューズレターには掲載しないこととなった。そのため、93号以降の入退会者リストは総会資料に掲載することとする(今回は省略)。

第2号議案: 2013年度決算・監査報告

日本保健医療社会学会2013年度決算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

一般会計				(単位: 円)			
科 目	予算額	決算額	差異	科 目	予算額	決算額	差異
収入の部				支出の部			
会費収入	5,026,000	5,006,000	20,000	印刷製本費支出	1,450,000	1,232,074	217,926
学会誌刊行物売上	100,000	94,540	5,460	郵送費支出	280,000	232,560	47,440
広告収入(特別号)	37,500	37,500	0	交通費支出	600,000	446,140	153,860
受取利息	400	664	-264	学会業務委託費支出	1,967,893	1,815,124	152,769
雑収益	5,000	156,300	-151,300	【宛送関連業務費支出】	125,175	134,885	-9,710
				【事務局関連業務費支出】	1,070,023	1,094,027	-24,004
				【編集関連業務費支出】	464,625	423,589	41,035
				【HP関連メンテナンス支出】	241,500	99,750	141,750
				【その他(資料保管代)】	66,570	62,873	3,697
				選挙関係費	0	0	0
				消耗品費支出	100,000	50,367	49,633
				会議費支出	20,000	0	20,000
				大会・研究会・部会補助費支出	380,000	269,694	110,306
				社会学系コンソーシアム年会費支出	20,000	20,000	0
				その他支出	5,000	12,260	-7,260
				予備費支出	1,855,295	0	1,855,295
当期収入合計	5,168,900	5,295,004	-126,104	当期支出合計	6,678,188	4,078,219	2,599,969
前期繰越額	1,509,288	1,509,288	0	次期繰越額	0	2,726,073	-2,726,073
収入合計	6,678,188	6,804,292	-126,104	支出合計	6,678,188	6,804,292	-126,104

園田基金				(単位: 円)			
科 目	予算額	決算額	差異	科 目	予算額	決算額	差異
収入の部				支出の部			
				奨励賞賞金	50,000	50,000	0
				交通費	70,000	2,000	68,000
				消耗品費	10,000	0	10,000
				業務委託費	21,000	21,000	0
				雑費	1,000	0	1,000
				予備費	3,001,887	0	3,001,887
当期収入合計	0	0	0	当期支出合計	3,153,887	73,000	3,080,887
前期繰越額	3,153,887	3,153,887	0	次期繰越額	0	3,080,887	-3,080,887
収入合計	3,153,887	3,153,887	0	支出合計	3,153,887	3,153,887	0

日本保健医療社会学会2013年度会計についての監査の結果、適正なものと認めます。

2014年4月26日 会計監査 山崎喜比古 印

2014年4月26日 会計監査 蘭 由岐子 印

貸借対照表

平成26年3月31日現在

日本保健医療社会学会

一般会計

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
普通預金	304,088	未払費用	535,784
郵便貯金	304,088	前受会費	377,000
郵便振替	2,465,171	預り金	0
未収金	713,678	流動負債合計	912,784
立替金	155,920	2.固定負債	
流動資産合計	3,638,857	固定負債合計	0
		負債合計	912,784
2.固定資産		III 正味財産の部	
固定資産合計	0	正味財産合計	2,726,073
資産合計	3,638,857	負債及び正味財産合計	3,638,857

貸借対照表

平成26年3月31日現在

日本保健医療社会学会

園田基金

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
郵便振替	3,235,107	未払費用	154,220
流動資産合計	3,235,107	流動負債合計	154,220
		2.固定負債	
2.固定資産		固定負債合計	0
固定資産合計	0	負債合計	154,220
資産合計	3,235,107	III 正味財産の部	
		正味財産合計	3,080,887
		負債及び正味財産合計	3,235,107

第3号議案:2014年度事業計画

1. 学会長より

学会長の担当事項、および、理事の分担を超えた全体的事項について提案する。

- (1) 2015年度第41回大会を法政大学(大会長・三井さよ理事)において開催する。
- (2) 2014年度の予算については、引き続き、中期的に、かつ着実に、学会運営上、健全な水準の予備費(繰越金)の積み上げに至ることを目標に、健全な財政構造の確立に努める。
- (3) 2014年7月開催の世界社会学会議横浜大会後の、本学会の国際化のあり方について検討する。
- (4) 次回大会の企画、準備、運営において、大会引受側の負担を軽減するような、大会引受側と理事会の業務分担の新たなあり方を検討する。

2. 研究活動担当理事より(関東、関西、看護・ケア研究部会):

- (1) 定例会・研究部会については、2013年度までと同じ方向での事業の継承・発展をはかる。
- (2) 園田賞(学会奨励賞)選考について、内規を引き継ぐとともに検討する。選考委員の選出や奨励賞の選定は、従来通り理事会が行う。
- (3) 学会大会企画及び特に研究活動に関わる運営上必要な事項について、大会事務局と連携・協力して実施する。

3. 学会誌編集担当理事より:

- (1) 『保健医療社会学論集』の第25巻1号と2号を刊行する。
- (2) 今後も公正かつ透明な査読プロセスの安定的運用につとめる。

4. 渉外・国際担当理事より:

- (1) ISA横浜大会(国際社会学会第18回世界社会学会議、2014年7月13~19日、パシフィコ横浜)に会員が参加するよう呼びかける。
- (2) 社会学系コンソーシアムが行う諸事業に協力する。
- (3) フランス保健社会学ネットワークを含め、世界の保健医療社会学者との交流の方策や情報発信の仕方を検討する。

5. 会報・広報担当理事より:

- (1) ニューズレターについて年4回程度発行する。
- (2) ホームページを、理事会開催ごとに年4~5回程度、定期更新するとともに、内容の充実を図る。

6. 総務担当理事より:

- (1) 2014年度の学会事務局体制を円滑なものとする。
- (2) 学会財政の安定確立に向けて努める。
- (3) 会員情報について、会員の理解と協力を得ながら、引き続き、整備を進める。
- (4) 新たな会員を確保するため近年の動向の分析と方策を具体的に検討する。
- (5) 東日本大震災被災者に対する会費減免措置を2014年度も継続する。
- (6) 大会開催校の負担軽減のための具体策を検討する。

第4号議案:2014年度予算**日本保健医療社会学会 2014年度予算書(案)**

自2014年4月1日 至2015年3月31日

一般会計

収入の部		支出の部	
	予算額		予算額
前期繰越金	2,726,073	印刷製本費	1,300,000
会費収入	4,914,000	郵送費	240,000
学会誌刊行物売上	157,000	交通費	530,000
広告収入(特別号)	37,500	学会業務委託費	1,992,200
受取利息	700	発送関連業務	120,000
その他(許諾抄録使用料)	5,000	事務局業務	1,100,000
		編集関連業務	430,000
		HP 関連メンテナンス	275,400
		その他(資料保管代)	66,800
		選挙関係費	200,000
		消耗品費	100,000
		会議費	20,000
		大会・研究会・部会活動補助費	380,000
		社会学系コンソーシアム年会費	20,000
		その他(振り込み手数料等)	5,000
		予備費	3,053,073
合計	7,840,273	合計	7,840,273

日本保健医療社会学会 2014 年度予算書(園田
基金)

自 2014 年 4 月 1 日 至 2015 年 3 月 31 日

収入の部		支出の部	
	予算額		予算額
前期繰越金	3,080,887	奨励賞賞金	50,000
		交通費	70,000
		消耗品費	10,000
		業務委託費	21,600
		雑費	1,000
		予備費	2,928,287
合計	3,080,887	合計	3,080,887